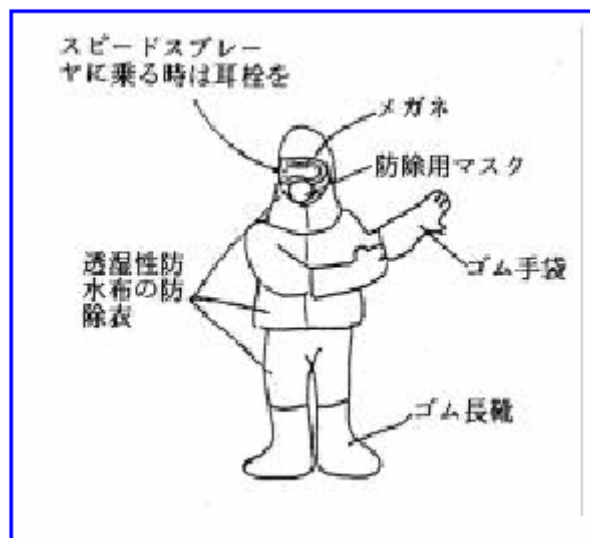


散布時の注意

農薬は、対象作物とその生育程度、散布方法、気象条件等、諸々の条件により、散布者にかかる薬量に大きな差が出ます。場合に応じた最も安全な散布方法、装備で散布しましょう。



1. 適切な防除衣をつける。

(1) 樹形や草丈の高い作物への散布

スピードスプレーヤーで散布する果樹類、きゅうり、たばこ等のように草丈が高い作物への散布作業は、全身に付着するので、露出部分を少なくするよう全身をおおいます。

(2) 草丈の低い作物への散布

マスク、手袋、ゴム長靴を必ず着用するとともにその他の部分も露出をできるだけ少なくします。特に、下半身は重点的に防水性の物にするなど、散布作業の実態にあわせた装備を心がけましょう。

2. 作業は朝夕の涼しい時間帯に行う。

散布は、25℃以下の時間帯を選びましょう。暑いと防備が不十分になりがちになり、また、汗と一緒に農薬が眼に入りやすく、健康面で問題があります。加えて、蒸散作用で薬剤が舞いあがり、効率的な散布ができなく、薬害が出る場合もあります。

3. 農薬被曝を減らす工夫

(1) 風の強い時は散布をひかえます。微風条件下では体をいつも風上におき、風下の方へ向いて後ろへ下がりながら散布します。

- (2) スピードスプレーやキャビンを取り付けると安全、快適です。この場合、キャビン内の農薬気中濃度は果樹園内に比べて 1/80～1/54 に抑えられオペレーターが安全かつ快適に散布ができます。
- (3) 野菜などの防除では、噴口部から隔たって散布することのできる「自走式散布機」が各種あり、これを利用すると、従来の手散布に比べて農薬の被曝量を極めて少なくすることができます。

農薬の人体付着量調査の例（平成 3 年：岩手県農村振興課・農試環境部）

散布方法/調査部位	頭部	マスク	胸部	右袖部	左袖部	右膝部	左膝部	右背部	左背部
定位置式動噴 (手散布)	70.92	1.64	8.72	81.47	6.20	9.70	9.44	94.91	11.85
自走式動噴	0.25	0.12	0.23	0.37	0.07	0.14	0.17	0.20	0.09

注) 数値：散布者身体の 9 カ所に取り付けたろ紙（直径 6 cm）に付着した農薬成分の量（単位 マイクログラム/ろ紙 1 枚、10 アールあたり）。

調査作物・農薬：きゅうり・ダコニール 1000 (TPN)

- (4) 施設での防除に際しては、くん煙を使用するとよいでしょう。

4. 散布中の飲食・喫煙はさける。

手袋をしていても手はどうしても汚れるので、農薬が飲食物やタバコに付着して口に入る恐れがあります。



5. 毎日の長時間散布は避ける。

農薬散布の一連続時間は 2 時間が限界。十分な休憩時間を取り、体力の消耗を避けましょう。共同防除組合等では、散布が毎日続くことがないよう、ローテーションを組む必要があります。